

令和6年度第1回地域福祉活動計画策定・推進評価委員会 会議録（要旨）

1 開催日時

令和6年6月24日（月）午後6時30分～午後8時45分

2 議事要旨

(1) 事務局長挨拶

- ・前年度末で3年の任期が満了となったため、新しい任期となる。今期もよろしく。3名の新任委員を迎えた。
- ・区のビジョン、地域福祉計画が4カ年計画となることから、地域福祉活動計画の計画期間も4年となる。本日は、議題5と6をメインにご討議いただきたい。
- ・委員長および副委員長は、引き続き山浦委員に委員長、明星委員に副委員長をよろしくお願ひします。

(2) 新任委員挨拶

各新任委員より挨拶。

(3) 配付資料確認

職員より配付資料確認。

（これより司会を委員長に交代し、議題に沿って進行。）

(4) 練馬区地域福祉計画進捗状況報告

委員より資料1に沿って報告。

- ・第3次ビジョンに合わせた令和7年～令和10年の4年計画である。
- ・現行計画に引き続き、「共感」、「協働」、「安心」の3つの理念を掲げ、「だれもが安心して心豊かに暮らせるまち」を目指す。
- ・目標達成のため、4つの施策を進める。重点取組は、施策ごとに3項目ずつ設けている。
- ・施策1と2の中に福祉サービスを利用しやすい環境を作る、重層的支援体制整備事業、再犯防止推進計画を盛り込んでいる。
- ・施策3は、ハード・ソフト両面からのユニバサルデザインのまちづくりの推進とし、現行の2施策を一本化した。
- ・施策4は、権利擁護が必要な方への施策となっており、重点取組については、主に社協の権利擁護事業を位置付けている。
- ・現在、案なので、これから地域福祉計画推進委員会の意見を聴きながら検討を進めていく。地域福祉活動計画と両輪となって、効果的なものとなるよう連携を図っていきたい。

（質疑応答・意見）

(委員) 施策1でインフォーマルな取り組み、施策2で福祉サービスの取り組みとなっている。この2施策は、活動計画の方でも、もっと一緒になって取り組んでいかなければならないと思う。力を入れていく必要がある。

(委員) ・デフリンピックも開催される。スポーツ振興関係の項目はないのか。  
・まちかどケアカフェは高齢者の集まりというイメージが強い。一般の区民の方も巻き込む形がいい。  
・障害がなくても移動支援等の福祉サービスを再犯防止に利用できないか。  
・目黒区ではふるさと納税のメニューとして福祉施設の返礼品がある。練馬区でもあるとよい。

→(委員) ・デフリンピックについて、地域福祉計画に何らかの形で盛り込めないか検討する。  
・まちかどケアカフェは、高齢者のみがターゲットではなく、様々な方の居場所ということで考えている  
・適切なサービスにつないで再犯防止に努めることが再犯防止計画の取り組み目標と認識している。

(5) 第5次地域活動福祉活動計画の取り組み状況について

職員より、資料2、資料3-1、3-2に沿って第5次地域福祉活動計画の取り組みを説明。

- ・新型コロナウイルスの影響で令和2～3年は思うような活動ができなかった。しかし、寄せられた相談等から、潜在化した地域・生活課題が見え、対応方法を模索する中で、それぞれの取り組みに新しい工夫や発見、今までと違うつながりを見出すことができた。
- ・コロナ禍ではオンラインを活用し、思いを共有してきたが、対面の大切さも実感した。令和5年度は、各地区でネリーズ懇談会を対面で再開している。ネリーズとして、懇談会に参加するだけでなく、何をすべきかと思っている方もおり、ネリーズ発足当初の状況に戻っているような印象を受けた。令和6年度はこれらを考慮して、情報発信力を高めていく。
- ・当事者が講師となって福祉教育を行ってきた。コロナ禍においても、オンラインで活動を続け、現在も交流が続いている。

資料5に沿って推進評価チームの取り組みを説明。

資料6に沿ってキーパーソンチームの事例紹介。

(委員長) 新任委員には、事務局で推進評価チームを割り振らせていただいているが、問題ないか。

→新任委員3名了承。

(質疑応答・意見)

(委員長) 再犯防止の件は、保護司でもある二葉委員何かご意見いただけるか。

(委員) 再犯の原因は1つではなく、また特効薬のようなものはないのが実情である。再犯は薬物が一番多い。簡単にネットで手に入ってしまう社会にも問題がある。

(6) 第6次地域福祉活動計画策定に向けて

職員より、資料7に沿って説明。

- ・これまでの活動計画よりも見やすくわかりやすい紙面にしたい。また、取組項目ごとに「目指す姿」を入れた。これは、4年後ではなく、将来あるべき姿としている。
- ・コロナ禍での気づき、ディスレクシアの取り組みが大きなポイント。
- ・取組項目ごとに見開き1ページ。左側が計画の具体的な内容、右側は、各種団体からのインタビューやイラスト・写真も盛り込む予定。

議題6について、各委員の意見は以下のとおり。

<p>対象もターゲットも広いので難しいが、社会福祉を関係ないと思っている方にも届くような形を考えていく必要がある。「重層」といった専門用語について、これから対話しながら、みんながわかるような表現を作れるとよい。</p> <p>(事前に寄せられた意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者、住民の視点が足りない。</li> </ul> <p>→右側のページに記載する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「活躍する・参加する」の表現は、「経験する」、「出会う」という表現に。→他の意見も参考に検討する。</li> </ul>
<p>自分ごとに考えられるように、受け止められてもらえるようにしていきたい。言葉が生きている、参加できるようなものにしていければよい。(ぶどうの木は5ページでいいか、との問いに対して) 全ページに入り込みたい気持ちはあるが、分類すればここでいいかなと思う。</p>
<p>社協の役割は理解するのが難しい。座学ではなく、実際の現場を見てはじめてわかった。区民のすべての人に現場を見てもらうことは難しいが、ここにいる委員の方がいろいろ繋げていくことも求められていると思う。</p>
<p>ネリーズはこの会場で生まれた。だれでも参加できる、何かができるという象徴。取組項目6の福祉人材のところに若者意識調査がはいっているが、取組項目7の方がよいと思う。かたくりの事例をどこかに入れるとよい。子育てママの居場所を作りたいという気持ちが、かたくりの利用者にとっても居心地が良い場所になった。その意義を若者意識調査とだれもが参加できる地域活動と絡めていく方がよい。</p> <p>(事前に寄せられた意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重点取り組みは、推進力やエンジンではないか。</li> </ul> <p>→表現を検討していきたい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナを経てこれまで届かなかった人たちにも届くように。</li> </ul> <p>→検討する。</p>
<p>福祉に思いがある方、地域に興味がある人以外に伝えることが難しい。災害に備えた、福祉人材、福祉教育は、非常に大きなテーマなので、全体の中でどういう風に社協が担うか</p>

<p>がわかりやすく書かれるといい。</p>
<p>区民参加と協働は第3次ビジョンでも主要な部分。区民の地域課題を解決する力を引き出すということは、当課でも取り組んでいるので、引き続き意見交換していきたい。</p>
<p>「福祉人材」は、就労なのか、活動なのか。 →（職員）福祉人材は、就労に限らず、活動を指しており、市民後見人や実習生等も含まれる。柱3の働く機会も「参加する」ことに主眼を置いている。</p>
<p>区民の方が興味を持って手に取ってもらえるか心配。興味を持つハードルを下げる必要がある。冊子の導入から、かしこまった計画の説明ではなく、みんなが興味のある身近な事柄から始まるとよい。</p>
<p>YouTubeを見て、ネリーズという名称を付けることで特別感が出てしまうのはどうかなと思ったけれど、今日の話聞いてネリーズも悩んだり、迷ったりするのだなと感じた。</p>
<p>地域には力がある、宝があると思って生きてきて、実際助けもらってきた。これから地域が変わっていくことに携わっていかれたらと思う。</p>
<p>区の地域福祉に関わってきたが、一歩前進したい、というところがある。もう一歩踏み込んでいったらもっといい形になると思う。</p>
<p>具体的な内容もあるが、関心事をどうやって検索するか、ということ考えた。なゆたふらっとでは、「子供の居場所 石神井」のキーワードでたどり着く。目次、索引、キーワードでたどり着く動線の工夫を。地域に根差したキーワードがよい。関心があることからしか入ってこない。難しい言葉は避けたほうがよい。ネリーズ懇談会が入り口ならQRコードで案内が出るとか方法はいろいろあると思う。自分の問題が解決できたら、次に人のことに関心を持てると思う。</p>
<p>計画の期間でどのような変化があったのか、第1次から第6次までそんなに問題は変わっていないと思う。目標を立てて、区切りをつけ、時代の変化に合わせてしかるべき対応をしていくのはよい。社協はやっていると思う。</p>
<p>区も「だれもが」、社協は「ひとりの不幸も」と幅広く出ている。そんなに自分が孤立しているように思ってた。OECDの調査によると加盟国で、日本が一番孤立していた。子どもの自殺も交通事故で亡くなる子供の数より多い。飯村先生のターゲットを絞ったほうがよいという考えがあったが、未来ある子供が悩んで亡くなっていく、孤立している人がいるということは見過ごせない。</p>
<p>国の施策や予算も増えているが、改善の実感はない。悪化していると思う。親御さんの経済状況、精神状況に因るところが大きい。ヤングケアラーになり、連鎖している。親御さんを取り巻く社会状況に根本的な問題がある。子供の貧困の根底にあるものを考えなければならない。</p>
<p>「その人らしい地域生活を支える」は、終活、高齢者に向けてなのか。普通の区民が普通に暮らせる要素があればよい。</p>

（職員）大筋はこれで進めていきたいと思う。子どもの問題は、取組項目4に入れていきたい。その他意見があった検索方法等、検討する。計画案について他に意見があれば、事務局で引き続き承る。

（委員）次回の委員会が3～4カ月後だと、ずいぶん進んでしまうので、その前にこの計

画について小規模で話し合っている会議があれば参加したい。

(委員) 案なので、これからもみなさんの意見をいただきたい。

※その他意見

(委員) 会員が増えている町会は1つもない。名簿を作りたくても個人情報で断られる。

孤立という話があったが、殺伐としていると思う。

(委員) 生活サポートセンターの貸付の申し込みを年代別に見ると、20代、30代が多くてショックを受けている。

練馬区で孤立、家賃が払えない若者が相談することもできず、仕事がなく苦勞している。私たちもっと何かできないか。事件も低年齢化している。

3 次回日程

日時：令和6年9月9日（月）午後6時30分～

場所：練馬区役所 多目的会議室